

『玉藻前アンソロジー 殺之巻』正誤表

	誤	正
p.163 注18	* 18 源頼政…生年一一〇四年、没年一一八〇年。平安時代の武將。多くの妖怪退治伝説を残した源頼光の玄孫でもある。保元の乱では後白河天皇側につき、平治の乱においては平清盛に味方し、ふたつの戦で勝者側で戦ったことで栄進する。そのため平氏が実験を握った時代でも中央に留まることができたが、後白河天皇の第三皇子、以仁王が平氏打倒のため立ち上がると、その中心となって戦った。しかし力及ばず、平等院にて自害し、この世を去った。『平家物語』などに残される、内裏の上空に現れた妖怪、鶴を射落とした伝説で有名。	* 18 讃岐…二条院讃岐のこと。生年一一四一年頃、没年一二一七年頃。平安・鎌倉時代前期の歌人。源頼政の娘。二条天皇に仕え、天皇の没後藤原重頼と結婚した。その後、後鳥羽天皇中宮任子に仕えたが、後に出家。『千載和歌集』『新古今和歌集』などの勅撰和歌集に七十四首の歌が残る。百人一首にも採られた「わが袖は潮干に見えぬ沖の石の人こそ知らね 乾く間もなし」の歌が有名で、この歌から「沖の石の讃岐」とも呼ばれた。家集に『二条院讃岐集』がある。
p.341 注6	* 6 天童山…生年一二〇〇年、没年一二五三年。鎌倉時代の禅僧。日本における曹洞宗の開祖。一二二三年に入宋し、天童山、天台山など諸山を歴訪。曹洞禅を体得して帰国した後、吉祥山永平寺を建立し、曹洞宗を開いた。それから京都、鎌倉などで禅の普及に努めた。	* 6 天童山…中国、浙江省寧波市にある天童山景德寺のこと。日本曹洞宗の祖である道元がこの寺の天童如浄に学んだ。

お詫び申し上げますとともにご訂正をお願い申し上げます。(文学通信)